

校長のひとりごと 13 (サマースペシャル)

「心に移りゆくよしなし事をそこはかたなく書き作れば…」

校長の内田です。2学期が始まりました。夏休みは本当にあっという間でした。

始業式では、3点について話しました。

まずは、全員がそろってここにいることの感謝です。夏休み中、熱中症は多少出たものの命にかかわるような大きな事故はありませんでした。生徒本人が気を付けたことや先生方の指導のたまものです。

次に「大きな声を出す」という話。1学期間、できる限り授業を回りました。その中で気づいたこと。「生徒の声が出ない」。自信がないのか、間違いたくないのか、恥ずかしいのか…。自分の意見をはっきりと伝えることはとても大事なことです。できなければ、これからの世の中、生きてはいけません。「間違っていることは恥ずかしいことではない。間違いを笑うことが恥ずかしいこと。」という話をしました。先生方にも生徒に声を出せてほしいとお願いをしました。2学期の目標にしてくれるといいのです。

そして、最後に姉妹校交流のことを話しました。姉妹校交流でアメリカ合衆国アラスカ州のレイスロップ高校へ8月13日に成田空港から旅立ちました。お見送りに行きましたが、生徒たちは期待半分、不安

半分って感じでした。どこか落ち着かない表情。当然です。それから11

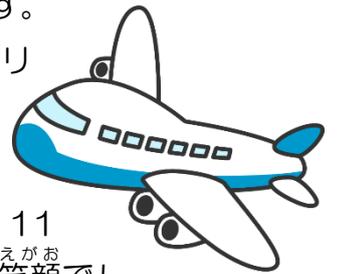
日後の24日に帰ってきたときの顔は自信に満ち溢れ、とても素敵な笑顔でした。

新しい経験が彼女らを大きくさせてくれたのだと思います。この経験は絶対に人生の役に立つことを信じてます。それと、その姉妹校交流が残念ながら今年度をもって終了するという事です。相手の学校の事情です。今、神奈川県教育委員会と連携して

新たな姉妹校を探しています。たとえ今年度中に姉妹校交流の調停ができなくても、

来年度は短期留学の形でも実施しようと思っていますとまで伝えました。

姉妹校交流については保護者あてに校長名の文書を出しました。ご覧ください。



夏休み明けボケボケしているわけにはいきません。来月の7日(土)、8日(日)は榊翔祭(文化祭)です。その準備をしっかりとしないと! かならず素晴らしいものを見せてくれると信じてます。

さて、生徒も先生も2学期頑張りましょう!!



ひこうか じょう 非行化させる20ヶ条（その4）

さて、今回が最終回です。このシリーズを夏休み中に終わらせたかったのですが、意外と時間がありませんでした。残念。

16. あなたが子どもに払った苦勞や犠牲について繰り返し言って聞かせ、恩に着せるべし。

恩にきせられる。大人でもいい気分はしません。子どもだって同じです。親に対する不信感を持ちます。不信感を持ては、最初は黙っていてもだんだんと反抗心を持つようになるのはあつという間でしょう。「やってもらいたくてやってもらったんじゃない」と思いますよね。そのうち親の元から離れていくことは間違いなしです！



17. お金こそが人生の最高目標であることを身をもって教え込むこと。宗教や精神生活を軽蔑させよ。

「お金があればあとは何でもいい。」とても寂しい考え方です。お金は大事です。お金がないと生活ができません。お金がなく心が荒むこともあります。でもお金に換えられないものは世の中たくさんあります。命だったり、夢だったり、友だちだったり、家族だったり、信用だったり…。時に宗教や精神生活（芸術や道徳）は心を豊かにし、人生を充実したものにしてくれます。お金がすべてではありません。



18. 子どもの前で法律、警察、役所の悪口を言い、社会のきまりや公共機関への敵意を植え付けよ。

反社会性を学習することになります。こんなことを聞いたことはありませんか？「先生と名前の付く職業の子どもはいいか、悪いどちらか」って。先生あるあるです。先生って名前の付く職業は、教員、医者、弁護士、政治家とか…。私は子どもが小さいころ



から家で学校の悪いところ、嫌なことは一切話しませんでした。家の中で同僚のことを悪く言ったりすると、子どもは権威とかルールとかを信じなくなるのは当然です。親は一番の見本ですから。

19. 社会のため、人のため、犠牲または奉仕などナンセンス！常に自分のことだけ考えるよう教えるべし。



「自分が良ければそれでいい。他人や相手がどうなろうが関係なし。」一般的にこういうのを「自己中心的」と言います。最近はそのような人が多くないですか？あおり運転もその一つのような気がしてなりません。自分が走りたのに邪魔されたからあおるとか…。いつからそんな人が増えたんでしょうか？

いよいよ最後です！

20. もし、以上のすべてを忘れても、次の一つだけを心がけるならば、あなたの子どもの非行は効率よく進むだろう。

“いつも夫婦仲悪く暮らし、憎しみ合い、できれば不貞をはたらくこと”

モデルの否定です。何度も出てきましたが「親は一番の子どものモデル」子どもはそれを見て育ちます。親がそうであれば子もそうなります。それだけ親の影響は思いのほか大きいということです。親から子へ様々なものが受け継がれます。そしてさらに子から孫へ…



これで我が子を非行化させる 20 ケ条は終了です。いかがでしたか？少しでも何かのお役に立てると嬉しいです。夏休み中に書き上げたかったのですが、残念ながら少し間に合いませんでした。すみません。まとめたものを別にホームページに載せておきますね。

きょう 今日はこちらまでです。